

第6回リレー式授業改善協議会

開催：臼杵市民会館

期 日：平成26年11月26日（水）

1、概要

(1) 講演 「子どもたちの豊かな学びを創造する地域とともにある学校づくりの推進」

講師 文部科学省初等中等教育局参事官付 学校運営支援企画官 出口 寿久氏

《コミュニティ・スクール制度導入の背景》

- ・H10からの導入と考えてよい。
- ・五日制導入、問題の多様化等、学校教育の限界が生まれ、三者の連携が必要となっている。

《コミュニティ・スクールの仕組みと現状》

- ・仕組み→コミュニティ・スクールとは、『学校運営協議会』が置かれた学校。役割は3つ（資料参）。
学校支援活動（7割）や学校評価（8割）を実施。東京都・福岡県・福島県・京都府の例
- ・現状→年々増加。H26、全国に約2000校。大分県では26校、5.9%

《学校運営に求められるPDCAサイクル》

- ・学校評価が根拠となり支援、条件整備につなげることが出来る。コミュニティ・スクールは役立つ。
- ・日頃の教育活動に保護者・地域住民の理解や支援を求めているか。自己評価が自己満足に終わっていないか。
- ・評価を公表し翌年の計画作成を行っているか。

《コミュニティ・スクールの取組について ～成果と課題～ 》

- ・成果→地域の教育力が向上し、学校を核として地域コミュニティの基礎力ができる。
コミュニティ・スクール指定以前の多くの課題は指定後に減少する傾向。『取り越し苦労』
- ・課題→学校評議委員制度の課題（自発的意見が述べにくい。校長の意見を受け入れる素地に左右）

《今後の方向性》

- ・社会の課題課から考えても、コミュニティの形成は必要。コミュニティ・スクールや学校支援地域本部は、ますます重要。地域と共にある学校づくりを推進していく必要がある。

(2) 講演 「大仙市の学校教育 ～「交流と連携」で総合的学力育成～」

講師 秋田県大仙市教育委員会教育長 三浦 憲一氏

- ・大仙市、市町村合併で広がった。H19大仙市ビジョンを作成。少子化への対応として「交流と連携」をキーワードにして基盤づくりを行ってきた。
- ・「守りと攻め」「共（ともに）創（つくる）考（かんがえる）開（ひらく）」の4本を柱とする。
共→国際交流・外国語教育 創→生徒会児童会活動・学校生活支援導入
考→H20からの教育の変化に対応。学ぶ意欲を高める授業。めあてとまとめ・ふりかえりのある授業。
開→学校支援地域本部。公民館と学を支援。PTA連合との連携・発信・情報提供。小中連携。

(3) 実践報告

- ①臼杵市立臼杵小学校 防災教育を中心にすえた学校・家庭・地域との連携
- ②玖珠町立八幡中学校 学力向上を中心にすえた学校・家庭・地域との連携